

# 郡山市セーフコミュニティ推進協議会 「防災・環境安全対策委員会」

報告者 委員長 國分晴朗

# 1 防災・環境安全対策委員会を設置した理由

## 理由① 災害を受けやすい日本

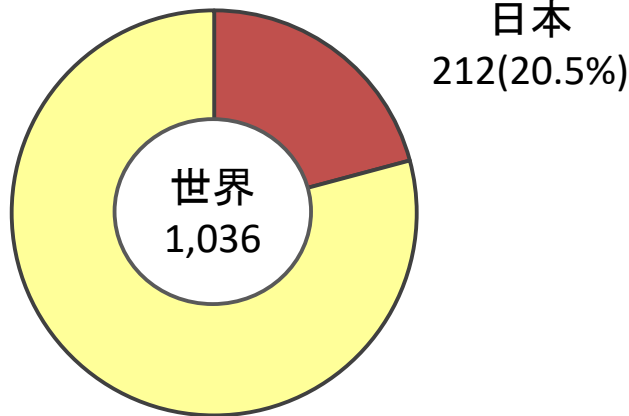
図1

世界全体に占める日本の災害発生割合は、マグニチュード6.0以上の地震回数20.5%、活火山数7.0%など、世界の0.25%の国土面積に比して、非常に高くなっています。

### 地震発生回数

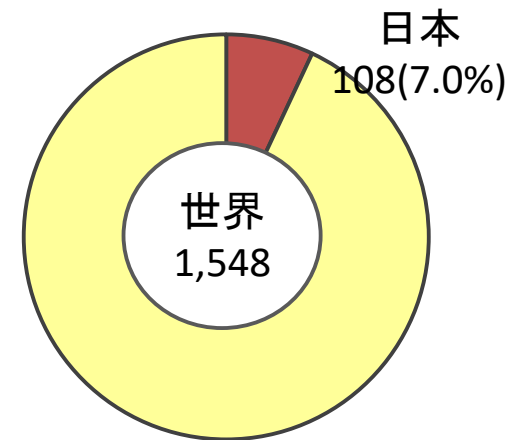
(マグニチュード6.0以上)

2000～2009年の合計



### 活火山数

(過去1万年に噴火した火山)



注) 日本については気象庁。  
世界については米国地質調査所及び  
米国スミソニアン自然史博物館の  
資料をもとに内閣府が作成。

内閣府公式ウェブサイト  
防災情報のページより  
一部引用

# 理由② 郡山市も大きな災害を経験

図2

## 東日本大震災(2011.3.11発生)の被害状況

●人的被害 死者1名 重傷2名 軽傷2名

●建物被害

	全壊	半壊	一部損壊	その他	計
公共施設	0	8	61	134	203
住家	2,294	18,749	32,062	168	53,273
店舗等	278	918	4,333	30	5,559
計	2,572	19,675	36,456	332	59,035

●道路・橋りょう・河川・農業施設等

亀裂	隆起	陥没	その他(護岸崩壊等)	計
789	160	997	755	2,701

●水道施設(震災発生直後)

漏水箇所 約1,000か所 断水戸数 約37,000戸(断水人口 約97,000人)

●下水道施設(震災発生直後)

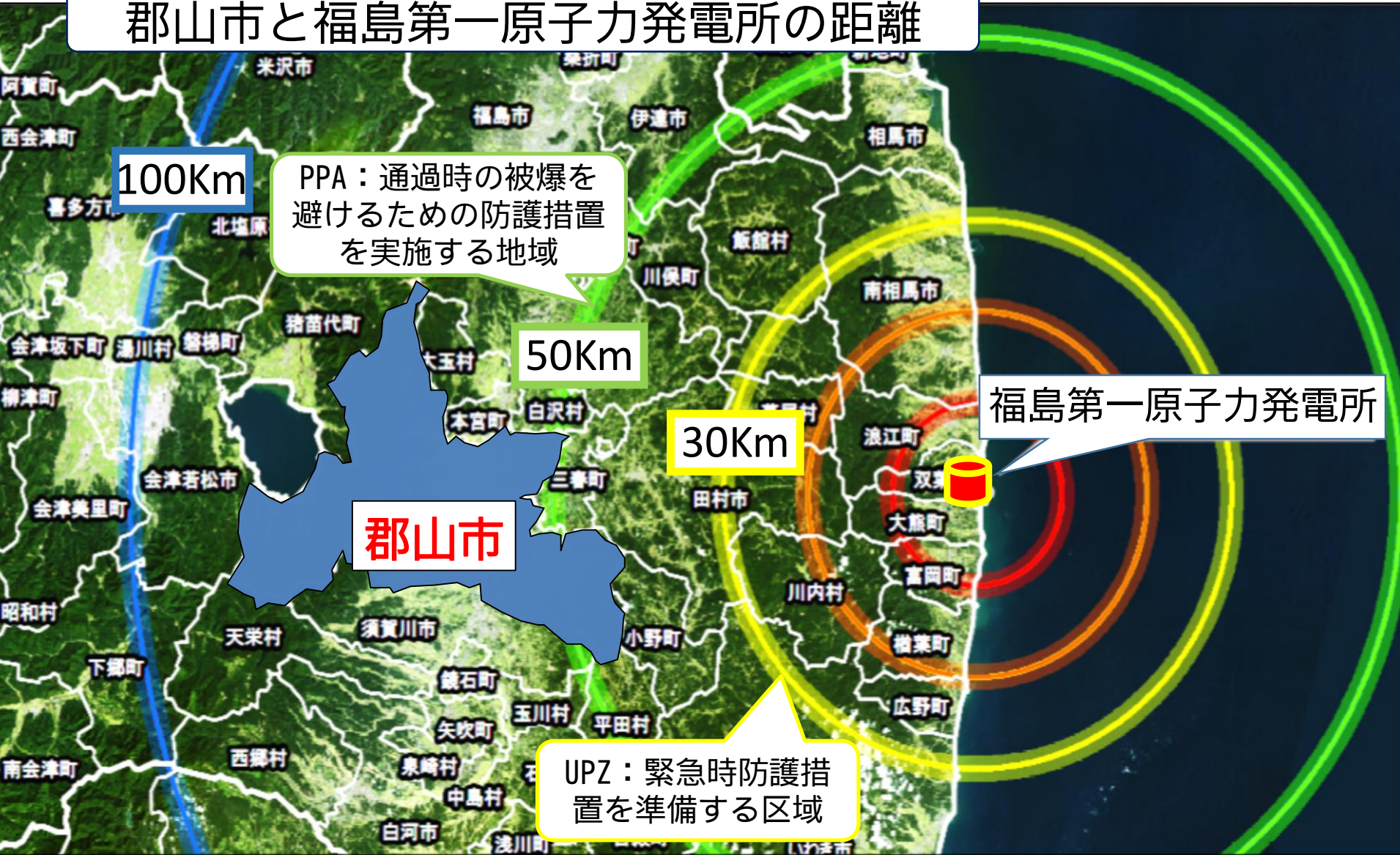
被災管路延長 約7,050m マンホール等破損 536か所

郡山市にとっては、気象庁が観測を開始以来、初めての大規模な地震災害であり、甚大な被害をもたらしました。

# 理由③ 福島第一原子力発電所の事故

図3

## 郡山市と福島第一原子力発電所の距離



# 原発事故による郡山市への影響

事故直後の住民の不安は大きかった

【事故当初】 平常値より高い放射線量となり、子どもたちの屋外活動の制限や、汚染物質の除去（除染）等が必要となった。

図4

子どもを中心に、県外への自主避難が行われ、人口が減少した。

【現在】 住宅の除染は完了し、放射線量も著しく低下した。

これまでに放射線による健康被害は発生していません。

出典 郡山市の原子力災害対策(第16版 2021.3)

測定場所	2011/3/29	2020/11/30	低減率
	空間放射線量		
郡山合同庁舎	2.59 $\mu\text{Sv/h}$	0.08 $\mu\text{Sv/h}$	96.9%
郡山市役所	2.57 $\mu\text{Sv/h}$	0.12 $\mu\text{Sv/h}$	95.3%

市民の意識の変化 出典 (セーフコミュニティ地域診断2020年度 市民意識調査)

	2014年度	2016年度	2018年度	2020年度
原子力災害に対する不安？	65.1%	34.8%	30.1%	18.1%

住宅除染等が完了するなど、市民の不安は大幅に減少

**理由④ 災害をなくすことはできない。  
しかし、被害を減らすことはできる。**



### ハードウェアの対策（実施中の例）

- ・インフラの耐震化
- ・通信や送電系統の冗長化
- ・消防力の増強
- ・河川改修による治水
- ・避難所の拡充
- ・緊急ヘリポート
- ・物資備蓄の充実
- ・等
- ・気象観測施設の整備
- ・建物の耐震化
- ・耐震性貯水槽の設置

### ソフトウェアの対策（実施中の例）

- ・防災計画（国・県・市）
- ・防災訓練（国・県・市）
- ・応急復旧技術の向上
- ・業務継続計画
- ・自治体間・民間の相互応援協定
- ・国土強靱化計画
- ・重要データのバックアップ
- ・等

## 2 防災・環境安全対策委員会の構成

図6

**住民組織 6名**

自主防災連絡会  
自治会連合会  
消防団  
明るいまちづくり推進委員会協議会  
婦人団体協議会  
女性消防協力会

**全16名**

**関係団体 4名**

郡山労働基準協会  
郡山地方消防防災協会  
文化・学び振興公社  
福島さくら農業協同組合

**行政 6名**

郡山地方広域消防組合消防本部  
原子力災害総合対策課  
河川課  
開発建築指導課  
上下水道局経営管理課  
園芸畜産振興課

### 3 「防災・環境安全対策委員会」の活動経過

図7

開催（実施）日	内 容	
2018年5月22日	第1回対策委員会	今後の対策委員会の進め方
2018年7月9日	第2回対策委員会	これまでも振り返り
2018年10月10日	第3回対策委員会	重点課題ごとの取組について
2018年12月18日	第4回対策委員会	課題ごとの進捗状況の確認と今後の展開について
2019年2月2日	第5回対策委員会	認証取得後における活動報告
2019年5月14日	第1回対策委員会	活動の振り返りと重点課題ごとの取組について
2019年9月3日	第2回対策委員会	重点課題ごとの取組の整理、市総合防災訓練
2020年1月14日	第3回対策委員会	令和元年台風第19号、SCフェスタ2020
2020年2月1日	第4回対策委員会	活動報告
2020年4月21日	第1回対策委員会	新型コロナウイルス感染拡大防止の注意喚起
2020年7月7日	第2回対策委員会	活動の振り返り
2020年11月17日	第3回対策委員会	令和元年東日本台風の被害概要と対応 他
2020年11月18日	第4回対策委員会	鹿児島市現地審査オンライン視聴
2020年12月25日	第5回対策委員会	都留市事前指導オンライン視聴
2021年6月28日	第1回対策委員会	重点課題と各指標の確認今後のスケジュール
2021年7月2日	第2回対策委員会	【書面】既存の各指標に対する意見照会
2021年7月13日	第3回対策委員会	秩父市事前指導オンライン視聴
2021年8月17日	第4回対策委員会	【書面】アンケート調査の各委員への意見照会
2021年10月7日	第5回対策委員会	事前指導等資料の確認



# 市民の意識① 災害に対する不安

図8

(回答数 n=2,284)

交通事故が62.9%と一番多く、地震（53.9%）や風水害（31.6%）の自然災害も強い不安要因となっている結果であった。また、新型コロナウイルスに関する差別・偏見等が3番目（44.2%）に多かった。

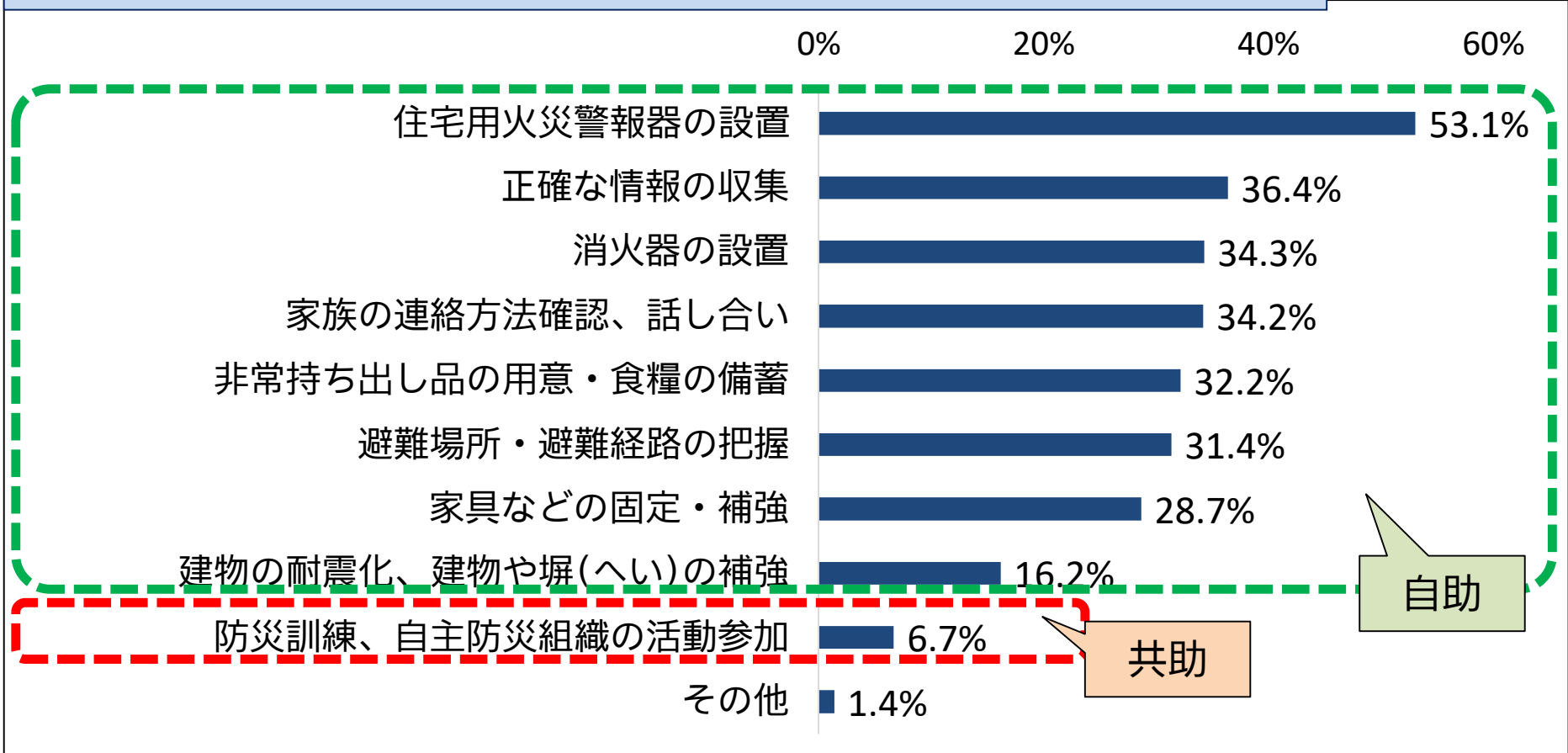
順位	けがや事故などの要因	割合(※)
1	交通事故	62.9%
2	地震	53.9%
3	新型コロナウイルスに関する差別・偏見・誹謗中傷	44.2%
4	風水害	31.6%
5	火災	30.8%
6	新型コロナウイルスの影響によるけがや事故	26.0%
7	外出時の転倒・転落等	22.3%
8	自宅での転落・転倒等	21.5%
9	原子力災害	18.1%
10	雪害・大雪	17.6%
11	職場での事故・ケガ	15.0%

# 市民の意識② 災害に対する各自の備え

一部に半数程度の実施が見られるが、「自助」「共助」の部分ともに低い。

図9

市民が各自実施している災害対策 回答数 n=1,368 複数回答



出典：郡山市 2020年度セーフコミュニティ市民意識調査

## 町内会

住民に最も身近な自治組織。

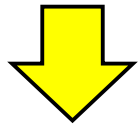
災害時には、避難誘導等において重要な役割を担う。

### 役割の例 ※郡山市地域防災計画より抜粋

例① 避難、避難状況の把握は町内会単位で実施

避難状況の掌握、又は避難住民との連絡調整は、避難が原則として町内会単位で実施されることから、各町内会の会長、あるいは町内会において、指名された者を窓口として行う。

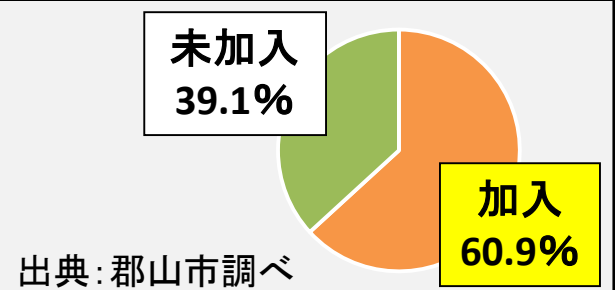
町内会は、東日本大震災でも有効に機能しました。



しかし、加入率は年々低下している  
63.2% (2016) ⇒ 60.9% (2021)

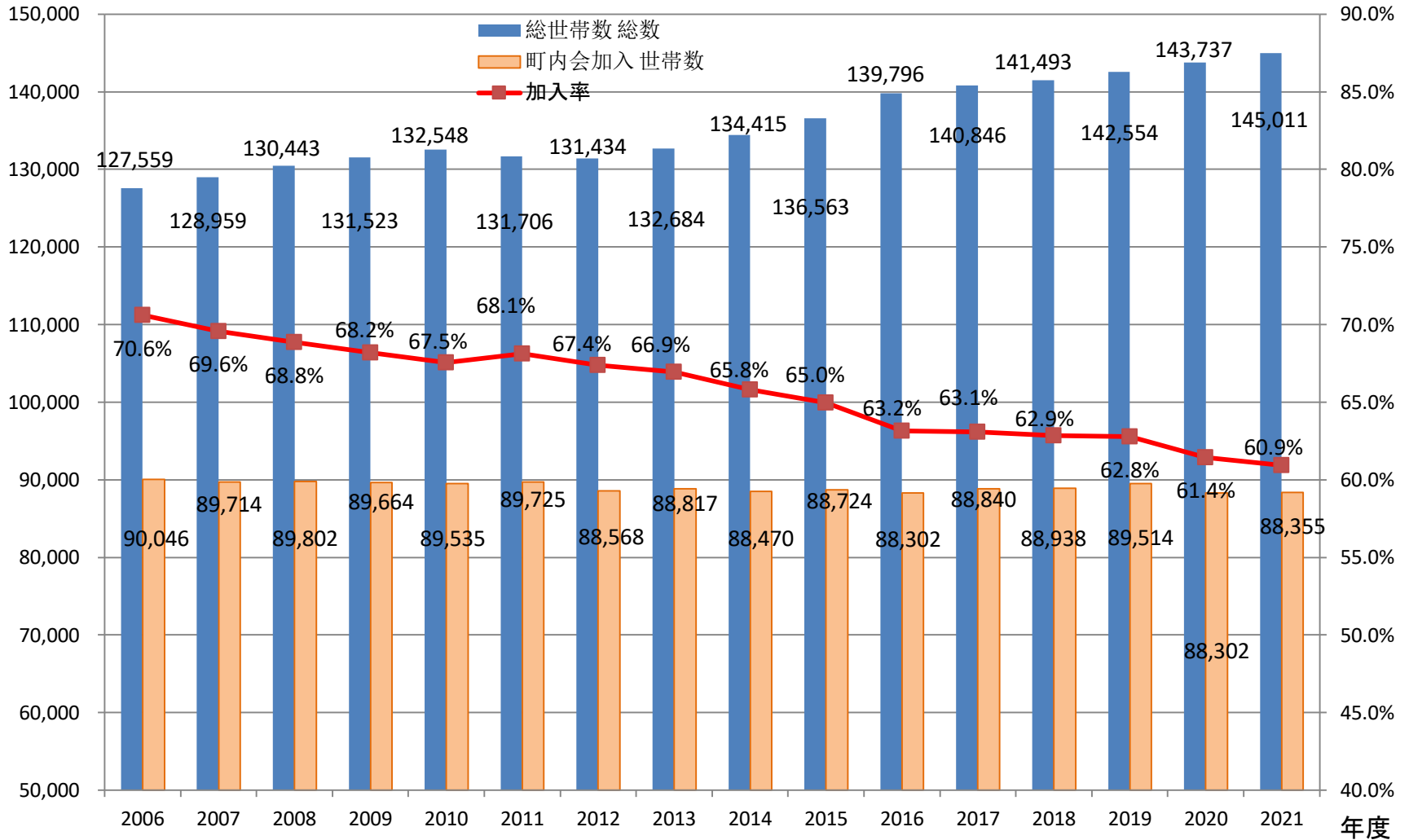
### 町内会加入状況 (2021年4月現在)

- ◆ 現在人口台帳世帯数 . . . 145,011世帯
- ◆ 町内会加入世帯数 . . . 88,355世帯



町内会への加入率は低下傾向。  
 地域内の交流や連携の低下が懸念される。

町内会加入率の推移（郡山市）

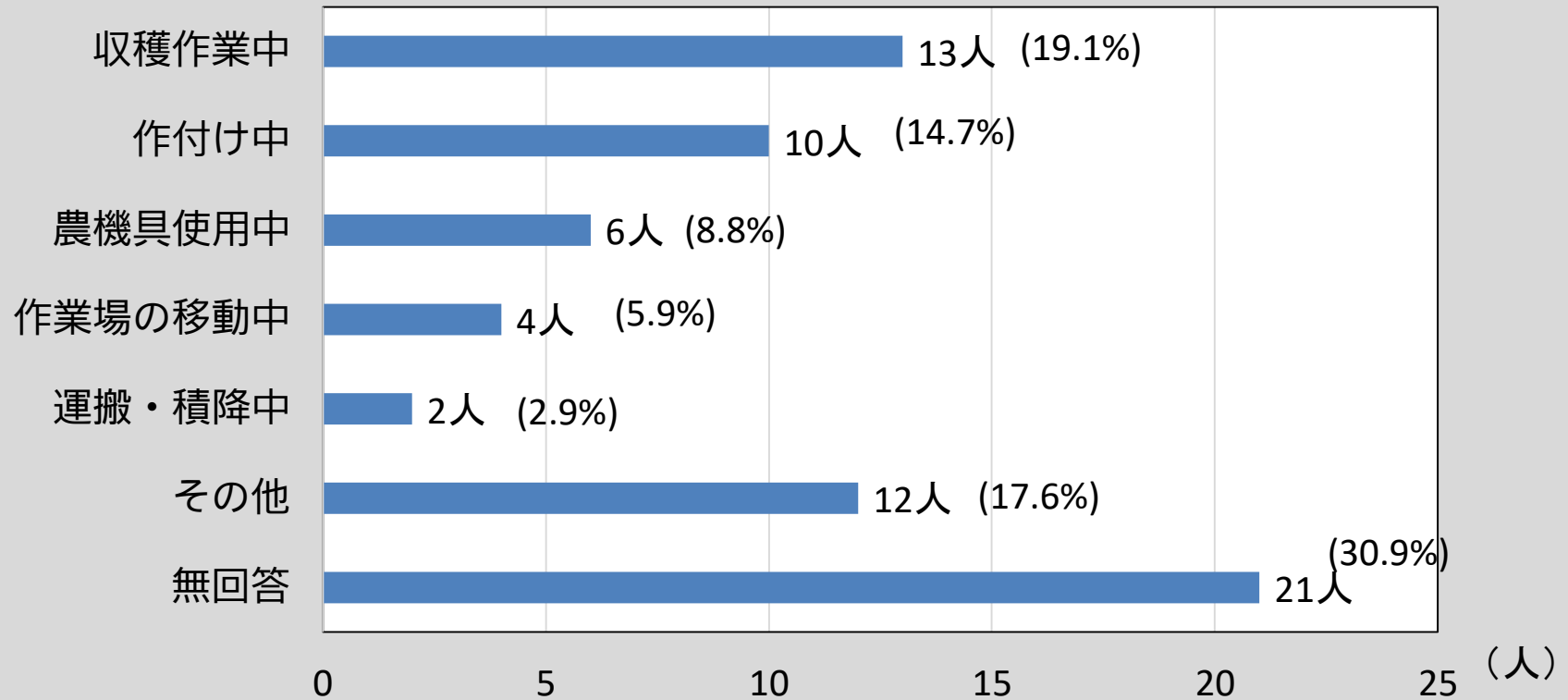


# 市民の意識④ 農作業時におけるけがの発生状況

収穫作業中や農機具使用中にけがをした人が多い。

図12

家庭菜園等を含めた農作業でこの1年間にけがをした人 (n=68)

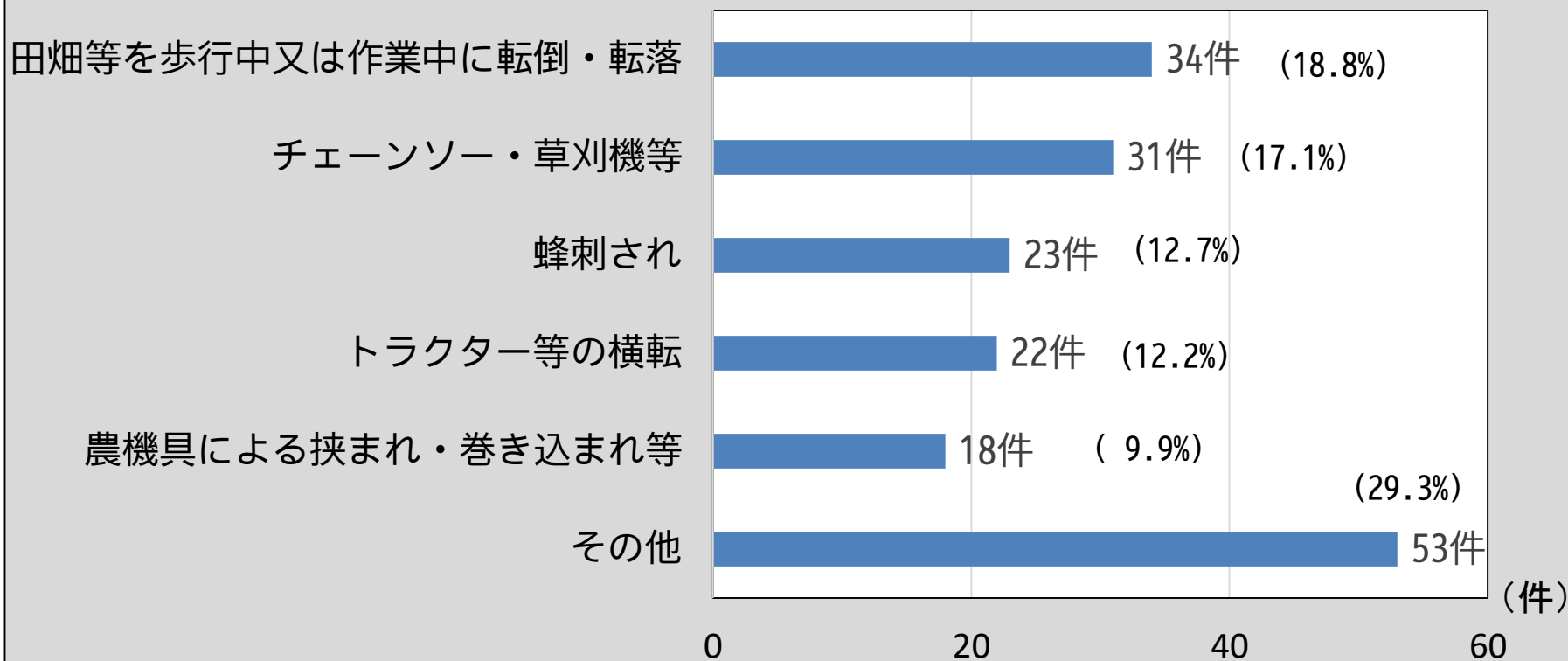


# 市民の意識⑤ 農作業時における事故の発生原因

作業中や農機具使用中にけがをした人が、全体の中で多い。

図13

2013年から2019年までの郡山地方広域消防組合消防本部管内において農作業中に発生した救急出動事案181件を分析



# 4 重点課題の選定

図14

図8、9

課題  
1

自然災害等の不安が大きいが、防災意識は低い。  
(備えまで至る人が少ない)

図10、11

課題  
2

地域コミュニティが低下している。  
(地域での防災体制が不十分)

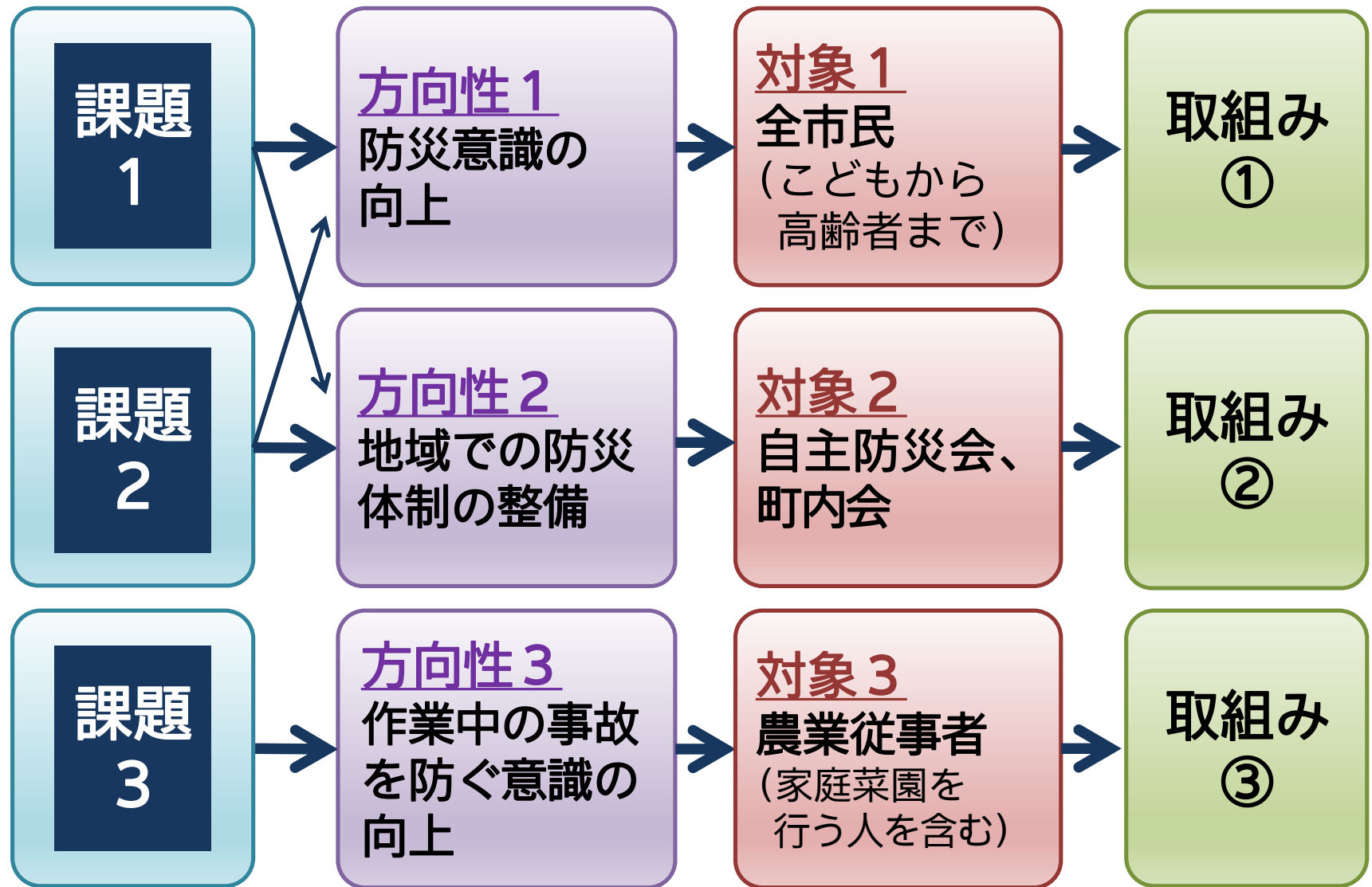
図12、13

課題  
3

労働者の災害が多い。  
(農作業中のけがや事故が多い)

# 5 課題に対する方向性、対象、取組み

図15





# 課題に対する取組み概要

図16

課題	分類	国レベル	自治体レベル	地域レベル
① ② (共通)	環境改善	被災者支援制度 地域防災力充実	要支援者支援制度 防災組織支援・強化	要支援者見守り 避難誘導・救護
	規則・規制	法整備・計画策定	計画・マニュアル策定	計画策定
	教育・啓発	訓練・研修会実施	防災情報配信 訓練・研修会実施 防災冊子作成・配布	訓練・講習実施 地域内安全点検 防災意識啓発

事例①

事例②

課題	分類	国レベル	自治体レベル	地域レベル
③	環境改善	相談窓口開設 労災保険給付制度	相談窓口案内	安全衛生管理
	規則・規制	法整備・計画策定	マニュアル策定	マニュアル策定
	教育・啓発	安全衛生啓発 安全研修実施	安全衛生啓発 安全講習実施	従業員教育 安全点検啓発

事例③

※ 当該労働基準監督署管内

# 既存の取組み事例①

## 郡山市総合防災訓練

(新型コロナウイルスの影響から2020・2021年は中止)

図17



# 既存の取組み事例②



## ●わが家の防災ハンドブックの作成（改訂）・配布

図18

### 【主な改定点】

- 「家庭防災の基本」編に家庭等で、日頃からの備え（防災行動計画）を作成するページを掲載。
- 避難所地図に想定浸水深を示し、自宅等の危険度を明示。
- 避難情報の解説(P1) や緊急連絡先等（表紙）を冊子構成の見直し

2021年5月末に町内会を通し全戸配布。

多言語（5カ国）版も更新

ハザードマップ  
2020.4作成

**保存版**

# わが家の防災ハンドブック

自分と家族の安全を守る  
～いつもの備え、いざ！行動～

### 緊急時の連絡先

火事・救急 119番	警察 110番	災害用伝言ダイヤル 171番
防災・避難所開設情報等	防災危機管理課	924-2161
道路の陥没、冠水、陥没、土のう関係	道路維持課	924-2301
河川の溢れ、堤防の崩壊	河川課	924-2701
下水道の溢れ	下水道保全課	932-7663
水道の断水、濁り水	水道施設課	平日:932-7642 休日:932-5236
農作物の被害	農芸畜産振興課	924-3761
森林の被害	森林課	924-3923
林道の被害	林業課	924-2251
大規模災害時専用電話	災害対策本部	924-2999
火災・救急・救助のテレフォンサービス	郡山地方広域消防組合	933-4000
停電・電線・電柱の故障	東北電力ネットワーク郡山センター (一社)LPガス協会郡山支部	0120-175-366 943-8585
ガス漏れ、メーターの壊損等	東部ガス(株)福島支社	932-3333

郡山市

# 防災ハンドブック

~災害のとき避げるところ~

Disaster Prevention Handbook ~ Evacuation Sites ~

防災手冊 ~災害時指定避難場所~  
 防災手冊 ~災害時指定避難場所~  
 방재 핸드북 ~재해 시의 지정 대피장소~  
 Sổ tay phòng chống thảm họa ~Địa điểm lánh nạn được chỉ định trong trường hợp xảy ra thảm họa~

災害に備えて、命を守る

緊急時の連絡先 Emergency Contact Details  
 緊急聯絡方式 緊急联系方式  
 긴급 연락처 Thông tin liên hệ trong trường hợp khẩn cấp

119 火事・救急 Fire or Emergency  
 110 警察 Police  
 171 災害用伝言ダイヤル Disaster Emergency Message Dial

郡山市  
 Koriyama City • 고리야시 • Thành phố Koriyama

# 郡山市 洪水ハザードマップ 全体図

2020（令和2）年4月

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
 SDGs 未来都市こおりやま

郡山市 内水ハザードマップ (ゲリラ豪雨の場合)  
 2020（令和2）年4月

郡山市イメージキャラクター  
 がくとくん おんぶちゃん

■内水ハザードマップでは、郡山市で近年大きな被害が発生させた雨（時間あたり74mm、10分あたり23mm、総雨量101mm）が降った場合に浸水が発生する区域を想定しています。

■浸水の予想される範囲は、雨の降り方や土地利用の変化などにより、変わることがあります。

■このため、この地図で着色されていない区域でも、雨の降り方によっては浸水する可能性があり、表示の浸水深よりも深くなる場合がありますので注意してください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
 11 気候変動に具体的な対策を  
 13 気候変動に一致する産業を

SDGs 未来都市こおりやま

地区版  
 ハザードマップ

QRコード

# 既存の取組み事例③

## ●農作業中のケガや事故を防ぐため、出前講座の開催やチラシ等作成・配布

図19

第41号 農政だより

SDGs 未来都市 こおりやま  
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
世界を築くための17の目標

JA福島さくら郡山地区本部 (TEL. 921-0533)  
NOSAI福島郡山田村支所 (TEL. 933-3307)  
県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)  
発行: 郡山市農作物生産対策協議会  
(郡山市園芸畜産振興課 TEL. 924-3761)

～農家の皆さんへ～  
郡山市 農政だより 第41号  
令和3年10月発行

**「こおりやま園芸カレッジ」のご案内** 園芸振興センター ☎957-2880

園芸振興センターでは、意欲ある農業後継者を育成することを目的に、1年を通じて園芸作物の栽培技術を学ぶ「こおりやま園芸カレッジ」を実施しています。

- 対象 こおりやま広域連携中核都市圏内に就農する18歳以上60歳以下の方
- 内容 野菜、花き栽培技術の習得のための講義、実習、市内先進農家視察等
- 費用 無料 (ただし、教材費、傷害保険料等については自己負担)
- 農業次世代人材投資資金 (準備型) に対応しています。

**<体験入校>**  
令和4年度入校希望者を対象に、体験入校を実施します。

- 日時 1回目 10月11日(月)午前9時30分～正午
- 2回目 10月12日(火)午前9時30分～正午
- ※2回とも同じ内容です。

●場所 園芸振興センター(郡山市逢瀬町多田野字寒風垣161)

●申込 10月6日(水)までに園芸振興センターに電話(024-957-2880)又はFAX(024-967-0019)で(体験希望日、氏名、住所、電話番号を記入)

●研修生インタビュー

4月からこおりやま園芸カレッジで研修している高田和秀さん、阿部太雅さん、大澤佳子さんへインタビューしました。

**研修を受けての感想は?**  
(高田) 基本的なことから教えてもらえることがよかったです。園芸振興センターでの実証栽培にも携わるので、品目によっては、は種から何度が同じ工程を繰り返すことで、理解が深まっているように感じています。  
(阿部) とても楽しく充実しています。ハウス1棟と露地圃場を使って自分で栽培できるのが、計画から自分で立てるのが大変ですが、自ら進んで取り組む姿勢があると成長できると感じています。  
(大澤) 仲間が見つけられることがよいと感じています。同期といっしょに研修を受けられるのは励みになりますし、外部研修が充実していて、市内農家の栽培を視察させて頂いたり、こおりやま園芸カレッジを修了された先輩方の巡回指導にも同行させてもらって、新規就農者が進む問題やそれに対するアドバイスも聞ける点が勉強になっています。

農政だより 年2回

「こおりやまの米」通信 令和3年9月

編集: 郡山市  
JA福島さくら郡山地区本部 (TEL. 921-0533)  
NOSAI福島郡山田村支所 (TEL. 933-3307)  
県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)  
発行: 郡山市農作物生産対策協議会  
(郡山市園芸畜産振興課 TEL. 924-3761)

Vol.7 刈取り適期特集

最新および過去の記事は、郡山市ウェブサイトから見るができます。

**生育状況**  
好天により「ひとめぼれ」、「天のつづ」、「コシヒカリ」ともに早より5日程度出穂期が早くなりました。それに併せて刈取り時期が早まりますので、作業が遅れないように準備を進めましょう。  
郡山市・JA福島さくら・県で設置している作況および肥料・農業展示ほ場の9月10日の生育状況は、こおりやまの米通信ホームページに掲載されますので、参考してください。

表 出穂後の積算気温による刈取り開始の判定

地域	主な品種の出穂期	8月25日までの積算気温(℃)	各積算気温の到達日			
			850℃ ひとめぼれ あきたこまち 黒山のつづ	1000℃ 天のつづ	1050℃ コシヒカリ	1200℃
平沼郡	7月31日 ひとめぼれ	602	9月10日	—	—	9月22日
	8月2日 天のつづ	551	—	9月14日	—	9月24日
	8月9日 コシヒカリ	361	—	9月24日	9月27日	10月5日
湖南	8月2日 あきたこまち	526	9月15日	—	—	9月29日
	8月4日 黒山のつづ	474	9月18日	—	—	10月3日

※「各積算気温の到達予想日」は、8月25日までの実測値、それ以降は平年値で算出。  
なお、平沼郡はメダス郡山、湖南町はアダス郡山世代のデータで算出。  
※上記の到達予想日は目安です。必ず現場を確認し、適期収穫に努めましょう。

**刈取り適期**  
【刈取り時期が早いと・・・】  
・作業態が悪く  
・未熟米・死米が多くなる

【刈取り時期が遅いと・・・】  
・食味低下の一因となる割割米・着色米が増加  
・光沢がなくなり品質低下

(1) 出穂後の積算気温による方法  
出穂期からの日平均気温を積算し、刈取り適期を推定できます。  
ただし、高温条件下では積算気温による適期予想と他の黄化状況にずれが生じやすいので、穂粒(右図)をみて判断しましょう。

(2) 穂の黄化状況から見た適期  
ほ場全体を見渡して平均的な株の穂の黄化程度を観察し、穂の80～90%が黄化し、穂軸の半分程度が黄化した時期が刈取り始期です。また、刈取りの遅延は割割米・着色米等の混入を防ぐため、積算気温1200℃を目安とします。

● 黄化もみ  
○ 未熟もみ

**ガス抜き予防対策に秋耕を**  
近年、田積後のガス抜きによる生育不良が問題になっています。ガスの発生がひどかった場合は、予防策として収穫後すみやかに稲わらすきこみをを行いましょう。同時に稲わら腐熟促進剤(ワラ分解キーン等)を使用すると、稲わら分解が促進されます。

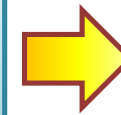
「こおりやまの米」通信 年7回

# 課題①に対する取組み

図20

課題  
1

自然災害等の不安が大きいが  
防災意識は低い。  
(備えまで至る人が少ない)



方向性1  
防災意識の  
向上

そのために・・・

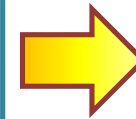
- ① こども(学校)を起点に家族まで巻き込む
- ② 家庭での備え、避難経路や連絡方法の確認実施

主な  
取組み

- ・ 地域防災マップ作成の普及促進
- ・ 学校や公民館等での防災学習促進
- ・ 地域での防災啓発（回覧板、行事等）

# 課題②に対する取組み

**課題  
2** 地域コミュニティが低下している。  
(地域での防災体制が不十分)



方向性2  
地域での  
防災体制の  
整備

そのために・・・

- ① 先進・モデル地区を選定
- ② 防災活動を通じた地区内・地区間の交流(助け合い)の活性化

主な  
取組み

- ・ 地域の防災活動への参加促進（訓練、講演会等）
- ・ 防災意識アンケート実施

# 課題③に対する取組み

**課題  
3**

**労働者の災害が多い。**  
(農作業中のけがや事故が多い)



**方向性3**  
**作業中の事故を防ぐ意識の向上**

そのために・・・

- ① 関係店舗や各種機会を通じた広報
- ② 農作業時の安全に対する意識向上と対策実施

**主な  
取組み**

- ・ 農作業中の熱中症対策の啓発
- ・ 身近な農機具の安全対策の啓発

# 令和元年（2019）東日本台風

図23

令和元年台風第19号は10月12日に日本に上陸し、関東地方・甲信越・東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害が発生しました。本市では、10月11日15時から13日6時までの期間降水量が195.5mm、最大24時間降水量が194.0mm、最大1時間降水量は27.0mmとなり、1976年の統計開始以降、10月の最高値を記録しました。

種別	被害内容
死者	6人
全壊 防火水槽	1,306箇所
大規模半壊	1,921箇所
半壊	4,651箇所
床上浸水	6,542箇所
床下浸水	847箇所
工業・商業損害額	361億9千万円
農作物等被害	30億663万円

避難情報等	【避難勧告等】
河川（洪水）	85,009人
土砂災害	52,048人
避難所開設数	42箇所
避難者数	3,973人



2019.10.13 郡山地方広域消防組合



# 被害写真

図24



(株)スペースワン提供



(株)スペースワン撮影

徳定地区



陰山建設(株)提供

## 地震の概要

発生日時	2月13日23時07分
震源の深さ	福島県沖深さ5.5km
地震の規模	マグニチュード7.3
本市の震度	【郡山市・湖南】震度6弱（最大震度6強：山形県蔵王町等）

## 被害概要（2021.9.30現在）

種別	被害状況
人的被害(負傷者)	13人
建物被害	
全壊	93棟
大規模半壊	67棟
中規模半壊	166棟
半壊	1,100棟
準半壊	2,429棟

## 避難状況

開設避難所数	17箇所
最大収容人数	21世帯29人

## ライフライン

停電（最大）	約13,600戸
水道	漏水55件
	断水50戸
ガス漏れ	2件

# 被害写真

図26



市営水泳場（開成山水泳場）



幕内橋



郡山駅前地区（大町）



文化施設（開成館）

## 陽性者発生状況【直近1ヶ月】

### 郡山市の新型コロナウイルス感染症患者の状況

2021.9.30公表分(9.29判明分)まで

#### ◆陽性患者の状況

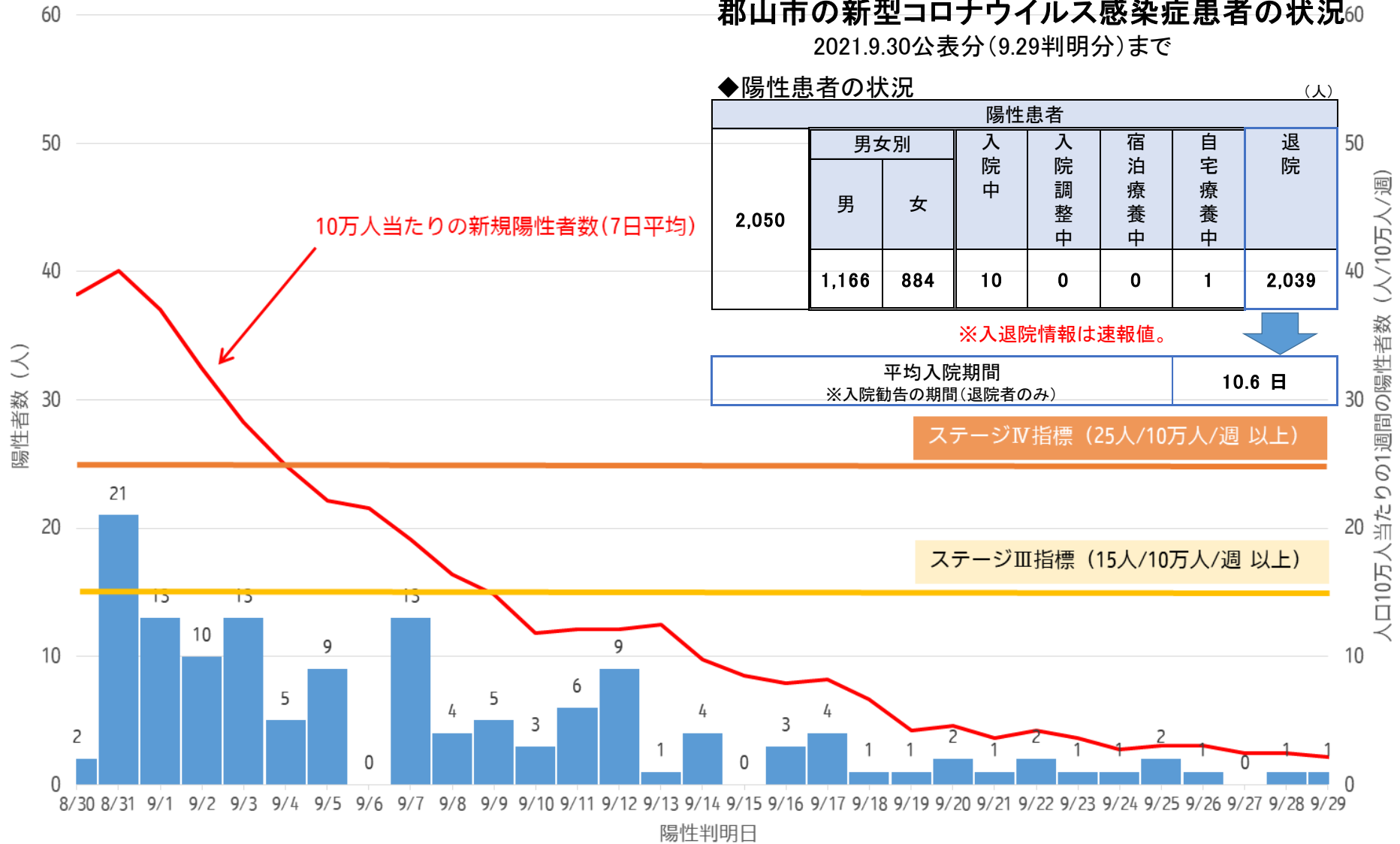
		陽性患者						(人)
	男女別		入院中	入院調整中	宿泊療養中	自宅療養中	退院	
	男	女						
2,050	1,166	884	10	0	0	1	2,039	

※入退院情報は速報値。

平均入院期間 ※入院勧告の期間(退院者のみ)	10.6日
---------------------------	-------

ステージⅣ指標 (25人/10万人/週 以上)

ステージⅢ指標 (15人/10万人/週 以上)



【実施時期】 2020年2～3月  
 【回収数】 1,031件

【調査件数】 2,033件  
 【回収率】 50.7%

調査結果

調査項目	回答	抜粋
		割合
必要な今後の取組み	災害時の連絡手段や避難ルール等の確認	56.0%
	情報収集方法の事前確認	52.5%
	避難所や避難ルートを自ら確認	49.9%
	町内会活動への参加、近所付き合いを深める	22.2%
	防災訓練や避難訓練に積極的に参加する	14.0%
避難の方法	自動車	89.4%
	徒歩	5.1%

図29

【実施時期】 2021年8月      【調査件数】 107件  
 【対象】 氾濫した河川沿線の中学3年生



調査項目	回答	抜粋 割合
地域結束のため必要な取組み	地域での防災訓練（危機意識の向上）	39%
	イベントを開催する（お祭り、運動会）	33%
	リーダーを育成する	16%
地域活動への参加	清掃・廃品回収に参加	46%
地域活動の参加しやすさ	近くで実施していれば参加する	25%
	土日祝日であれば参加する	18%

# 災害等での新たな課題に対する取組み概要

図30

課題	分類	国レベル	自治体レベル	地域レベル
① ② (共通)	環境改善	被災者支援制度 地域防災力充実	要支援者支援制度 防災組織支援・強化	要支援者見守り 避難誘導・救護
	規則・規制	法整備・計画策定	計画・マニュアル策定	計画策定
	教育・啓発	訓練・研修会実施	防災情報配信 訓練・研修会実施 防災冊子作成・配布	訓練・講習実施 地域内安全点検 防災意識啓発

事例⑥

事例⑤

事例①～④

課題	分類	国レベル	自治体レベル	地域レベル
③	環境改善	相談窓口開設 労災保険給付制度	相談窓口案内	安全衛生管理
	規則・規制	法整備・計画策定	マニュアル策定	マニュアル策定
	教育・啓発	安全衛生啓発 安全研修実施	安全衛生啓発 安全講習実施	従業員教育 安全点検啓発

## 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた円滑な避難所開設と運営

### ●内容

2020.7.29 自主防災組織、市職員 約120人

2021.7.12 協定締結先企業、市職員 約70人

- 感染症対策を踏まえた避難所開設訓練を実施
  - 受付（体調不良者の受付や避難スペースまでの誘導：動線確保）
  - 感染症対策のための備蓄品の説明
    - マスク、非接触型体温計、サーマルカメラ、パーテンションの設置等



受付



間仕切り設営

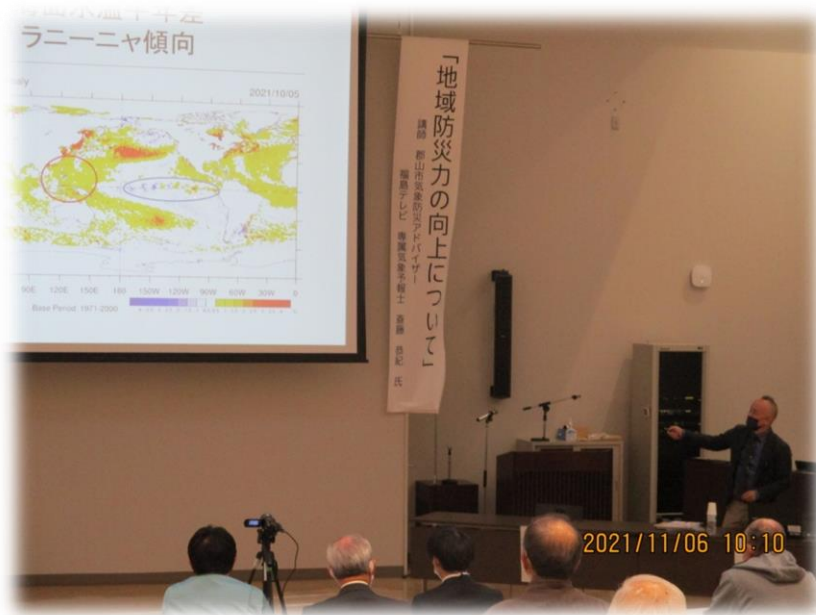


本年5月の災害対策基本法改正に伴う避難情報の変更点や災害情報の取得方法など、市民の方々が災害への備えを習得し、地域防災力の向上につなげるための研修が行われました。

【日 時】 2021.11.6（土）10:00～11:30（YouTubeライブ配信）

【参加者】 市民、自主防災組織、女性消防協力会等：約60名

【演 題】 地域防災力の向上（講師：郡山市気象防災アドバイザー）



# 事例③ 防災士養成講座など (人材育成)

図33

地域の防災リーダーの育成のため、防災講演会の開催や市民防災リーダー講習会のほか新たに防災士養成研修を実施。

## ● (新規) 防災士養成講習会 (2020～)

### 【参加者】

市民(自主防災組織、民間企業等)

### 【参加人数】

50名(今後年間50名を養成予定)



自主防災組織「講習会」(2020)

## ● (既存) 郡山市自主防災組織連絡会「講習会」

【参加者】 自主防災組織会員等

【参加人数】 約100名

【内容】 気象防災アドバイザーの防災講習



市民防災リーダー講習会(2020)

## ● (既存) 市民防災リーダー講習会 (2004～)

【参加者】 市内自主防災組織から

【参加人数】 26名(2019年)

【内容】

- ・ 講義、演習、救命救急、図上訓練
- ・ 2020、2021年は新型コロナ禍で中止

# 事例④ 市政きらめき出前講座



図34

- 小中学生から高齢者まで、幅広い年代の市民に対し実施
- 2020年度 17回 628人 (2020-2021コロナ禍、減少傾向)
- 2021年度 24回 1,344人 ※WEB会議による講座も実施
- 【実績】2018年度27回 1,281人、2019年度39回 2,345人



講師



受講者

新型コロナ対策  
Web会議による  
「出前講座」

阿武隈川沿いの  
中学校（3年生）

## 新たに、河川沿い防災行政無線の増設、避難所開設状況や使用状況を確認できる情報アプリ「VACAN」などを導入するなど情報体制の強化

### 郡山市の災害・感染症等情報を配信します

気象情報や国民保護情報をはじめ、市内で発生した災害情報や避難指示等の住民避難情報、新型コロナウイルスの感染症情報や、熱中症情報などについて、さまざまな手段で配信しています。  
メールマガジンやSNSなどに登録して、最新の防災情報を入手しましょう！

#### 防災(防疫)ウェブサイト

防災(防疫)専用のウェブサイトです。  
URL <https://bousai.koriyama-fukushima.jp/>  
スマートフォン・スマホ以外の携帯電話 <https://bousai.koriyama-fukushima.jp/sp/>

#### 防災行政無線

市内の小中学校や公民館、公園などに設置した屋外スピーカーから放送を流します。  
※お住まいの地域や気象条件により聞きとりにくい場合は他の配信手段で内容をご確認ください。

#### メールマガジン

防災ウェブサイト内の「防災メールマガジン」から登録いただくことができます。  
URL <https://bousai.koriyama-fukushima.jp/contact2>  
スマートフォン <https://bousai.koriyama-fukushima.jp/sp/mag/>

#### コミュニティFM放送

「郡山コミュニティ放送(コヤマFM)」から放送します。  
※番組放送中でも強制割り込みで災害情報をお知らせします。  
周波数・・・FM79.1MHz

#### SNS(フェイスブック、ツイッター)

フェイスブック、ツイッターに登録されている方が「いいね!」や「フォロー」していただくことで利用できます。

#### テレビ(NHKデータ放送)

NHKのデータ放送で確認できます。  
リモコンの「dボタン」を押すとL字画面に切り替わります。

#### 電話ガイダンス

災害時などには、災害情報などの防災行政無線の内容を新着順に電話でお知らせします。  
※防災行政無線の放送が無い場合、注意喚起などの行政情報をお知らせします。(ぼうさい 郡山)  
【フリーダイヤル ☎ 0120 - 131 - 963】

#### スマ保 災害時ナビ

災害時に役立つスマートフォンアプリです。  
※スマートフォンのGPS機能を使って現在地情報を取得し周辺の避難場所等が表示されます。  
※現在地から避難場所までのルートを表示したり、避難場

#### 緊急速報メール

NTTドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイルの携帯電話に送信されます。  
※情報は発信時点で市内にいる方に配信されます。  
※機種により設定が必要なものや受信できないものがあります。

#### VACAN

各避難所の位置や開設状況、リアルタイムの混雑状況を確認できます。



河川沿いに  
3箇所増設  
(2021年)  
合計152箇所



(新規) VACAN  
(避難所の空き状況のお知らせ)

# 事例⑥ 避難所の拡充



図36

- 民間企業等の施設の一部を借用し避難所を確保
- 車での避難を希望する市民へ車中避難スペースを確保(2020～)

避難所名	区画数	備考
学校法人郡山学院 ケイセンビジネス	89区画	新規
学校法人東都学園 郡山健康科学専門	127区画	新規
新協地水（株）	25区画	新規
日本大学工学部	246区画	既設
帝京安積高校	200区画	既設

車中避難場所	駐車台数	備考
ビックパレットふくしま 駐車場他（12施設）	2,307台	
ニラク（9店舗）	3,230台	新規
公園（14箇所）	1,344台	新規
カルチャーパーク駐車場 他（2箇所）	1,817台	事業者用

## 【その他】

郡山市旅館ホテル組合との協定締結旅館・ホテルを活用した避難場(2020.9.23)

重点課題	問題点	今後の進め方
①	<p>幅広い年齢層へ防災力の向上を進めるためには、新型コロナウイルス禍への対応を含め学校や企業等の理解が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市や地域で行う防災に関する事業をあらゆる機会・手段を用いて、学校、企業等へ積極的に周知する。</li> <li>・WEB方式等対面以外の活動方法の検討する。</li> </ul>
②	<p>自主防災組織の母体となる町内会加入率の低下並びに高齢化。 また、地区により、防災活動状況や近隣同士の交流（助け合い）に温度差がある。</p>	<p>先進的な市内の（モデル地区）との交流や先進都市の事例紹介などにより、他の地区への普及につなげる。</p>
③	<p>無理をしがちな高齢作業者の意識改善や不特定多数の家庭菜園を行う人へ直接啓発は難しい。</p>	<p>協力店舗等からの意見を踏まえ、対象者の興味をひく啓発方法と機会を検討する。</p>

ご清聴ありがとうございました。